

# 雨水を効率的に排水する雨水管きよ整備による浸水被害の低減

5か年加速化対策

国土強靱化

災害時の効果発揮事例

NATIONAL RESILIENCE

概要: 令和4年7月大雨時など常襲的に浸水が発生する立谷川地区において、5か年加速化対策による雨水管きよ整備事業の実施により、令和6年7月大雨時の浸水被害を効果的に防止・軽減。

対策名: 1-2 流域治水対策(下水道) <5か年加速化対策> 【国土交通省】

- 実施主体: 山形県山形市
- 実施場所: 山形県山形市立谷川<sup>たちや</sup>地内
- 事業概要: 常襲的に浸水が発生する地区において、浸水被害の防止・軽減のため、雨水管きよの整備工事を実施

(断面) 1m×1m ほか

(延長) 約240m

- 事業費: 約2.2億円

主な事業	事業費	実施期間
雨水管きよ整備事業	約2.2億円	R4～R5
うち5か年加速化対策	約1.0億円	R4～R5

- 災害の外力、被害と効果:

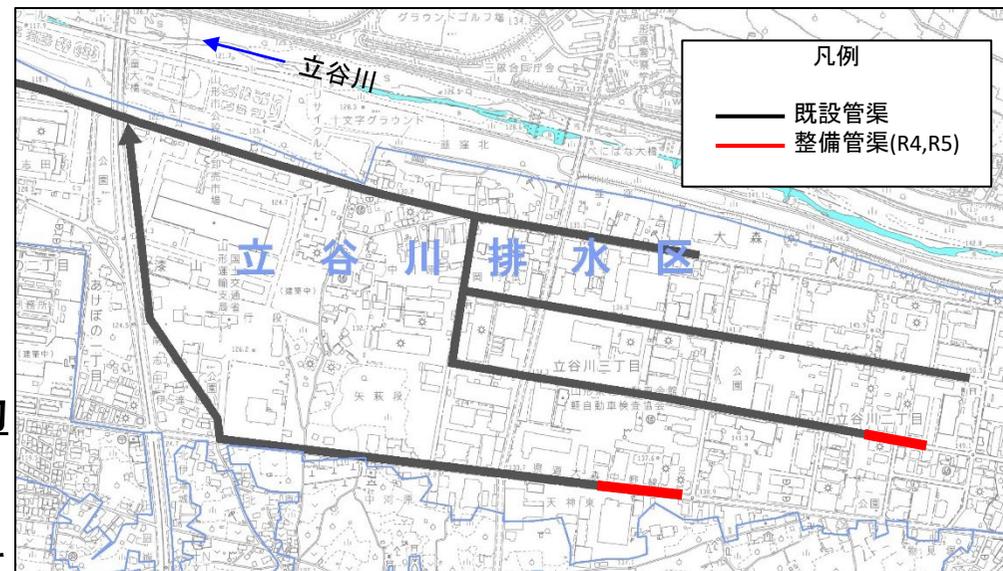
令和4年7月15日の大雨時に道路冠水が発生するなど常襲的に浸水が発生する地区において、雨水の速やかな排除を目的に雨水管きよを整備。これにより、計画降雨(38.0mm/h)を超える令和6年7月25日の大雨(47.5mm/h)の際にも、同じ箇所にて過去と同じ道路冠水被害を防止するなど、浸水被害を軽減。



令和4年7月 大雨時



雨水管渠(整備中)



下水道(雨水)による主要な管きよの整備率  
山形市(令和3年83.7% → 令和5年84.2%)